



《六月の田園》【岩手県岩手郡滝沢村】1971年 世田谷美術館蔵 ※[]内の地名の表記は、制作時の記録等に基づきます。

The Painter of Folk Dwellings
Mukai Junkichi:
A Record of Exchange

民家の画家
向井潤吉
人物交流記

2018年
9/8(土) — 11/4(日)

世田谷美術館
Setagaya Art Museum

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
TEL: 03-3415-6011 (代表)
展覧会のご案内: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)
www.setagayaartmuseum.or.jp

開館時間 | 10:00 — 18:00 ※入場は17:30まで 休館日 | 毎週月曜日
※ただし、9月17日(月・祝)、9月24日(月・振替休日)、10月8日(月・祝)は開館。9月18日(火)、9月25日(火)、10月9日(火)は休館。
主催 | 世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団) 後援 | 世田谷区、世田谷区教育委員会
助成 | 一般財団法人 自治総合センター、公益財団法人 花王芸術・科学財団
観覧料 | 一般 1,000 (800) 円、65 歳以上・大高生 800 (600) 円、中小生 500 (300) 円
※()内は20名以上の団体料金
※障害者の方は500円。ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。
※リピーター割引/会期中、本展覧会有料チケットの半券をご提示いただくと、2回目以降は団体料金でご覧いただけます。

民家の画家 向井潤吉 人物交流記

The Painter of Folk Dwellings
Mukai Junkichi: A Record of Exchange

向井潤吉は1901(明治34)年に京都で生まれ、1995年(平成7)年に世田谷で没しました。

その人生の時のながれを考えれば、世界も日本も大きく変貌した20世紀という時代に、ほぼ重なります。向井潤吉は人として、画家として、この激動の世紀が生み出した多様な潮流と対峙し、そして、自身の生活と芸術の道を探り求めてきました。

向井潤吉は太平洋戦争後、およそ40年間にわたって日本全国を旅して、草屋根の民家を題材として制作を続けたことで知られています。ややもすれば、そのことに焦点が強くなりすぎてしまい、向井潤吉が画家として歩んできた道程や、その画業の変遷に対して、じゅうぶんな関心がはらわれてこなかったきらいがあります。

本展は、向井潤吉の画業を主軸としつつ、多くの文章をのこした文筆家としての向井が想いをこめて綴った数々のエッセイを手がかりとして、構成するものです。

向井のエッセイでは、彼が画家として成長し、道を拓いていく過程に関わった作家たちの様子がしばしば活写されています。たとえばそれは、向井が若き日に間接的あるいは直接的に薫陶を受けた浅井忠、都鳥英喜、鹿子木孟郎、安井曾太郎、小出檐重、須田国太郎などの先輩画家であり、戦時中にインパール作戦へともに従軍した火野葦平であり、また同世代でともに世田谷に住んだ本郷新、牛島憲之、難波田龍起、佐藤忠良、舟越保武、柳原義達といった人たちです。

この展覧会は、このようなかたちで、向井潤吉が創造の土壌を育む過程で交流をもったさまざまな作家の仕事や、彼が羨望の眼差しで見つめた先人たちの作品にも視野を広げ、草屋根の民家という独特な題材を追いつけるに至った一人の画家の足跡を辿ろうとするものです。向井潤吉の作品のみならず、20世紀という時代に、同じ空気を吸いながら創作に励んだ作家たちとの交友の軌跡をお楽しみください。



制作のあいまに 1970年代

開催概要

展覧会名：民家の画家 向井潤吉 人物交流記

The Painter of Folk Dwellings Mukai Junkichi: A Record of Exchange

会期： 2018年9月8日(土)～11月4日(日)

会場： 世田谷美術館 1階展示室

休館日： 毎週月曜日 ※ただし9月17日(月・祝)、9月24日(月・振替休日)、10月8日(月・祝)は開館。9月18日(火)、9月25日(火)、10月9日(火)は休館。

開館時間：10:00～18:00 ※入場は17:30まで。

観覧料： 一般1000(800)円、65歳以上・大高生800(600)円、中小生500(300)円

※()内は20名以上の団体料金 ※障害者の方は500円(介助の方1名まで無料)、大高中小生の障害者の方は無料

※リピーター割引/会期中、本展有料チケットの半券をご提示いただくと、2回目以降は団体料金でご覧いただけます

主催： 世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)

後援： 世田谷区、世田谷区教育委員会

助成： 一般財団法人 自治総合センター、公益財団法人 花王 芸術・科学財団

展示構成

第1章「出生から渡欧まで」1901-1936

※キャプションに所蔵先の記載がない作品は全て世田谷美術館蔵
※★印の作品は広報画像のご用意ができません

第1章では、向井潤吉の生誕にはじまり、関西美術院での学びの日々、1927（昭和2）年から1930（昭和5）年にかけての滞欧時代、そして太平洋戦争が勃発するまでの時期の歩みをテーマとします。とりわけ、関西美術院という学びの場で出会った人々、そして滞欧時代にルーヴル美術館に日参して取り組んだ模写については、大切な要素としてとりあげます。

第1章で向井潤吉が出会った人々

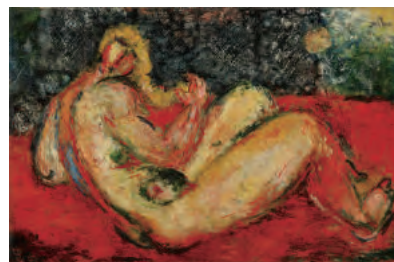
実父・向井才吉（宮大工・職匠）
母方の祖父・松美作太夫（宮大工）と実母・向井津彌
浅井忠（関西美術院創設者）
鹿子木孟郎（関西美術院創設メンバー）
竹中良吉（牧ハルナ）（関西美術院同窓生）
須田国太郎（関西美術院同窓生）
川端弥之助（関西美術院同窓生）
虫明柏太（関西美術院同窓生／第6回二科展初入選同期）
佐伯祐三（パリの画塾で臨席）
小堀四郎（向井と同時期にルーヴル美術館で模写制作）
伊藤快彦（関西美術院院長・恩師）
都島英喜（関西美術院院長・恩師）
沢部清五郎（関西美術院院長・恩師）
小出楢重（関西美術院先輩／向井潤吉渡欧画会発起人）
黒田重太郎（関西美術院先輩／向井潤吉渡欧画会発起人）
三輪四郎（関西美術院同窓生）
安井曾太郎（関西美術院・恩師）



1. 《自画像》1919年



2. 《舞妓の顔》1920年



3. 《横たわる裸婦》1928年



4. 《老人の頭（デューラーの模写）》1929年

第2章「戦争の時代、そして民家との出会い」1937-1959

第2章では、主として戦時下の報道班員としての向井の歩み、そして、彼が後半生を費やして取材と制作を重ねた草屋根の民家というモチーフとの出会いをテーマとします。

向井は1937（昭和12）年の中国への従軍をはじめ、フィリピン、ミャンマーなどに従軍し、作戦記録画の制作に従事しました。戦争という理不尽で虚妄な暴力を体験したのちに、彼は日本古来の住まいである草屋根の民家と出会います。さらに、終戦後には旧二科会で気脈を通じ合わせた仲間たちと、行動美術協会を創立しました。破壊と再生、そして日本の原風景を象徴する草屋根の民家を見出した、向井潤吉の心の機微をお伝えできる章とします。



5. 《影（中国・蘇州上空にて）》1938年
福富太郎コレクション資料室蔵★



6. 《漂人》1946年



7. 《ロクタク湖白雨（インパール前線）》1944年
北九州市立文学館蔵★



8. 《鯉場の女》1951年
福富太郎コレクション資料室蔵★

第2章で向井潤吉が出会った人々

菅原栄蔵（建築家／弦巻のアトリエ兼自宅の設計者）
火野葦平（文学者／1943年・インパール戦線従軍同道者）
古関裕而（作曲家／1943年・インパール戦線従軍同道者）
榎倉省吾（行動美術協会創立メンバー）
古家新（行動美術協会創立メンバー）
伊谷賢蔵（行動美術協会創立メンバー）
柏原覚太郎（行動美術協会創立メンバー）
小出卓二（行動美術協会創立メンバー）
高井貞二（行動美術協会創立メンバー）
田辺三重松（行動美術協会創立メンバー）
田中忠雄（行動美術協会創立メンバー）

第 3 章 「民家遍旅」1960-1990

第 3 章では、草屋根の民家を題材とする作品制作が本格化する、1960 年代から晩年までの作品をご紹介します。

向井潤吉にとっての草屋根の民家とは何だったのか、彼にとっての写実的表現とは何だったのかということを、数々の代表的な作品と、さまざまなエッセイを通じてご覧いただきます。



9. 《山腹の家》[東京都西多摩郡檜原村数馬] 1964 年



10. 《秋風の中の水車》[岩手県江刺市中沢] 1969 年



11. 《甘樫丘遠望一橋寺境内より》
[奈良県高市郡明日香村大字橋] 1970 年



12. 《雨後千曲川》[長野県下水内郡豊田村豊津碓] 1977 年

第 4 章 「世田谷の地で巡り会った人々」

向井潤吉は、1930（昭和 5）年に結婚し、そして上京しました。1933（昭和 8）年からは、世田谷区弦巻に居宅を兼ねたアトリエを構えます。世田谷は他の近隣地域と同様に、関東大震災以後に住宅地として大きく発展した地域です。そこには小田急線、京王線、東急線の私鉄各線の進展や、宅地開発がおおき絡んでいます。そして、向井と同年代の美術家たちも数多く、世田谷の地に住まうようになります。彼らは出身地や出身校、またジャンルも超えた「白と黒の会」という親睦グループをつくり、自由気ままな懇親の場を設けていました。

第 4 章では、世田谷の地で向井が会ったさまざまな美術家たちをご紹介します。

第4章で向井潤吉が会った人々（いずれも「白と黒の会」メンバー）

小川千寛、福田豊四郎、松本弘二、牛島憲之、難波田龍起、中谷泰、本郷新、菊池一雄、柳原義達、佐藤忠良、舟越保武、向井良吉など

向井潤吉 略年譜

1901（明治 34）年	京都市下京区に生まれる。	1945（昭和 20）年	行動美術協会を創立。民家を題材とする制作が始まる。
1914（大正 3）年	京都市立美術工芸学校に学ぶ。	1959（昭和 34）年	ヨーロッパ各地を写生し、巡る。
1916（大正 5）年	関西美術院に学び、人物のデッサン、油彩画の基礎を学ぶ。	1961（昭和 36）年	アトリエを不審火で消失。貴重な作品、資料を失う。
1919（大正 8）年	新聞配達で生計をたてながら、第 6 回二科会展に初入選する。	1962（昭和 37）年	住まいを兼ねたアトリエを再建。（現在の向井潤吉アトリエ館）
1927（昭和 2）年	渡欧。ルーヴル美術館で模写に没頭し、技法、表現の研究を重ねる。	1966（昭和 44）年	訪中日本代表団の一員として、北京、上海、蘇州などをめぐる。
1930（昭和 5）年	帰国。第 17 回二科会展に滞欧作を特別出品し、樗牛賞を受ける。	1974（昭和 49）年	画業 60 年記念向井潤吉環流展を開催。
1933（昭和 8）年	世田谷区弦巻にアトリエを構え、以降、制作の拠点とする。	1982（昭和 57）年	世田谷区名誉区民となる。
1937（昭和 12）年	陸軍報道班員として、戦争記録画の制作に従事する。	1993（平成 5）年	向井潤吉アトリエ館開館。
		1995（平成 7）年	急性肺炎で、自宅において逝去。アトリエ館において、「お別れの会」を行う。

関連企画

◆ 講演会「日本の民家の特徴」

講師：藤森照信（建築家・建築史家・江戸東京博物館館長）

日時：9月22日（土）

14：00—15：30（開場 13：30）

場所：当館講堂

定員：先着 140 名 入場無料

※当日 12：00 からエントランスホールにて整理券を配布

手話通訳付

◆ 講演会「向井潤吉、その歩みと言葉」

（世田谷美術館友の会共催事業）

講師：橋本善八（世田谷美術館学芸部長）

日時：9月23日（日）

14：00—15：30（開場 13：30）

場所：当館講堂

定員：先着 140 名 入場無料

※当日 12：00 からエントランスホールにて整理券を配布

手話通訳付

◆ 講演会「向井潤吉の模写修行 —油彩画に学ぶ—」

講師：薩摩雅登（東京藝術大学美術館教授）

日時：10月20日（土）

14：00—15：30（開場 13：30）

場所：当館講堂

定員：先着 140 名 入場無料

※当日 12：00 からエントランスホールにて整理券を配布

手話通訳付

◆ 100 円ワークショップ

子どもから大人まで、どなたでもその場で参加できる工作）

日時：会期中の毎土曜日

13：00—15：00（随時受付）

場所：地階創作室

参加費：1 階 100 円

*その他の関連企画について

新たな関連企画情報は、随時、当館ホームページでご案内いたします。
世田谷美術館ホームページ「開催中・開催予定のイベント」、「新着情報」をご覧ください。

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館 /1993（平成 5）年 7 月開館

向井潤吉アトリエ館は、向井潤吉とその家族が 1933（昭和 8）年より住んでいた、世田谷区・弦巻の閑静な住宅地に位置しています。クスギ、コナラ、ケヤキなど、武蔵野の面影を今に残す樹木に 囲まれたアトリエ館は、まさに、向井の制作の息づかいを伝え、瀟洒な雰囲気を醸し出し、来館者にとって、潤いのある憩いの場となっています。

アトリエ館は、1962（昭和 37）年に建てられた、アトリエと住まいを兼ねた建築と、1969（昭和 44）年に岩手県一関より移築された土蔵によって、構成されています。

アトリエ館では、年間 2 ～ 3 回の企画展を開催し、それぞれに向井潤吉先生の 70 年近くわたる画業を、さまざまな視点から探り、ご紹介しております。

展覧会のご案内：「向井潤吉 民家の旅 風土のかたちを求めて」

2018 年 9 月 8 日（土）— 2019 年 3 月 17 日（日）

分館でも向井の作品を
みることができます！



建築写真・撮影：宮本和義

〔交通案内〕

- 東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩 17 分、もしくは美術館行バス「美術館」下車徒歩 3 分
- 小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス「砧町」下車徒歩 10 分
- 小田急線「千歳船橋」駅下車、田園調布駅行バス「美術館入口」下車徒歩 5 分
- 来館者専用駐車場（60 台、無料）：東名高速高架下、厚木方面側道 400m 先、美術館まで徒歩 5 分

〔同時開催収蔵品展〕

ミュージアム コレクション II

東京スケイプ Into the City 7 月 21 日（土）～ 10 月 21 日（日）

コーナー展示「濱田窯の系譜——濱田晋作 濱田友緒展」

ミュージアム コレクション III

アフリカ現代美術コレクションのすべて 11 月 3 日（土）～ 2019 年 4 月 7 日（日）

コーナー展示「追悼——保田春彦」

〔お問合せ〕

03-3415-6011（代表）

一般来館者（展覧会のご案内）

ハローダイヤル 03-5777-8600

報道関係者 ※取材および写真貸出依頼

広報担当：

電話 03-3415-6419（広報直通）

FAX 03-3415-6413